

第1回 広島女学院中学高等学校 S G H 研究発表会に参加しました！

6月15日（金）に広島女学院中学高等学校にて、第1回SGH研究発表会が開催され、本校から3年の橋本、溝口が参加しました。

この発表会は、SGH校による課題研究の深化を目的として行われており、今回は「多様な視座から課題研究（平和構築・核軍縮）を発展させる」というテーマのもとで発表や交流が行われました。

まず初めに、昨年ノーベル平和賞を受賞したICANの国際運営委員である川崎哲さんの講演を拝聴しました。川崎さんは、自分が平和活動に携わるまでの経緯やICANの活動などを紹介された後、これからの核兵器廃絶に向けてのステップ、そして今後予想される核兵器の動向についてお話しされ、核兵器に関する学びを深めることができました。

次に、渋谷教育学園渋谷高等学校の3名と開催校である広島女学院中学高等学校の2名、そして本校の2名によるプレゼンテーションを行いました。いずれの学校も平和をテーマにした研究を行っており、それぞれの特徴や発信の仕方を学ぶことができました。東京では、学校で平和に関して取り扱う機会が少ないとのこと。社会科の授業で核に関するディスカッションを行ったり、戦争に関するパンフレットの製作を行ったりと活発に平和学習が行われていることを知り、感銘を受けました。広島女学院は、署名活動や広島アーカイブなど多くの活動に取り組んでおり、多面的なアプローチの仕方を知ることができました。私たちも、研究で作成した外国人向けの平和副教材についての発表を行いました。発表後には、広島女学院の生徒から、広島と長崎の学校で協力して、さらに良い教材をつくれるのではないかと提案を受けるなど様々なフィードバックも得られました。また、川崎さんと生徒によるディスカッションも行われ、それぞれの学校で行われている平和教育や、核兵器に関する意見を交換することができました。

今回の研究会を通して、大きく2つのことを学びました。1つ目は、作成した教材の発信の仕方についてです。私たちは今まで、どうしたらこの教材を広められるか考えていましたが、川崎さんは「自分たちの研究を『伝えた』かどうかではなく、『伝わった』かどうか重要だ」とおっしゃっており、今行っている研究を客観的に見るが必要だと感じました。

2つ目に、私たち若者が、平和のために行動を起こす必要があるということです。最近、米朝首脳会談が行われるなど、核兵器廃絶に向けて少しずつ世界は動き出しているように感じられます。そのなかで川崎さんはICANの代表として、米朝それぞれに提言書を送ったそうで、「決してテレビの観客になってはいけない。当事者意識を持って、自分たちが訴えかけなければいけない」とおっしゃっていました。このことは、私たち一人一人に当てはまることだと思います。ただ報道されるニュースを眺めるのではなく、それを踏まえて、実際に行動に移すことがこれからの私たちの課題でもあると思います。

この会で、貴重な他校の発表を聞き、多くの刺激を受けました。それぞれの学校によって、同じ「平和」というテーマでも切り口も、発信の仕方も違いました。今回学んだことをこれからの研究に生かしていきたいです。



